

外国語学研究科 欧米言語文化専攻

博士前期課程

教育研究上の目的

本専攻の博士前期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野に関する優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本専攻の博士前期課程では、学士課程卒業までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野で優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目標としています。それとあわせて、この課程は、言語教育の現場にいる人たちのために再教育を行うことも教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻の博士前期課程では、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」のいずれかのコースのカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 専門的知識に基づいた広い社会的な視野を持つ。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 外国の資料を基に研究を行い、研究結果を外国語で発信することができる。
 - (2) 産業界・教育界・学界において国際的に活躍できる力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 専門的知識を活かし、社会に貢献する力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻の博士前期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野に関する優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 学士課程教育との接続に配慮しつつ、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野の優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけられるカリキュラムを提供します。
 - (2) 「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースにカリキュラムを編成しています。
 - (3) 理論的探究能力と、専門知識の応用能力とを身につけられるカリキュラムを提供します。
2. 教育の方法と評価

- (1) 担当教員による専門性の高い指導を受けることができ、研究の方法、研究結果の発表の仕方などについて十分な力をつけることができる環境が用意されています。
- (2) 教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意します。
- (3) 成績評価の方法、基準を明確にしています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 本専攻の博士前期課程では、学士課程卒業までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野で優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目標としています。

2. 本専攻の求める入学者

- (1) 本専攻が取り扱う分野の基盤となる知識を持つ人
- (2) 研究に必要な外国語の運用能力を持つ人
- (3) 研究に対する高い意欲を持つ人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 研究に必要な外国語の運用能力、専門とする分野の基礎的な知識、研究に対する意欲の高さを基準に、選考します。

外国語学研究科 欧米言語文化専攻

博士後期課程

教育研究上の目的

本専攻の博士後期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野に関する高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本研究科の博士後期課程では、博士前期課程修了までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけて、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目標としています。それとあわせて、この課程は、言語教育の現場にいる人たちのために再教育を行うことも教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻の博士後期課程では、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」のいずれかのコースのカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、博士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 専門的知識に基づいた広い社会的な視野を持ち、高度な研究活動を通して社会に貢献する力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 国際的なレベルで、研究活動を行い、研究結果を発信することができる。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 学界・教育界・産業界において国際的に活躍できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻の博士後期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野に関する高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 博士前期課程教育との接続に配慮しつつ、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれか分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけられるカリキュラムを提供します。
 - (2) 「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースにカリキュラムを編成しています。
2. 教育の方法と評価
 - (1) 自ら研究課題を設定し研究活動を行うための指導と機会を提供します。

- (2) 学内外の研究活動の場における研鑽がえられるようにします。
- (3) 教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意します。
- (4) 成績評価の方法、基準を明確にしています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 本専攻の博士後期課程では、博士前期課程修了までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目標としています。

2. 本専攻の求める入学者

- (1) 本専攻が取り扱う分野に関する専門知識と研究能力を持つ人
- (2) 研究に必要な外国語の運用能力を持つ人
- (3) 研究に対する高い意欲を持つ人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 研究に必要な外国語の運用能力、専門とする分野の知識、研究能力、研究に対する意欲の高さを基準に、選考します。